

ヒメミソハギは北海道に分布するか否か

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授

早川 宗志

水田雑草のヒメミソハギ（ミソハギ科）は、アジア・アフリカ・オーストラリアの熱帯～亜熱帯に広く分布する種である（図-1）。日本国内では、関東以西の温暖な地域の水田や湿地には普通に発生する一方、関東より北の地方では生育地域が少ない。

著者は山形県立博物館（YAMA）におけるさく葉標本の調査から、“ミズキカシグサ”とされていた標本のひとつが、正しくは“ヒメミソハギ”であることに気が付いた（図-2、図-3）。この標本は山形県から初めてとなるヒメミソハギの分布記録であった。そこで、ヒメミソハギの国内分布を調べてみると、北海道における分布の有無に疑義が生じた。それは、雑草学系の図鑑類では、（北海道を含む）日本全土に分布と記述されているのに対して、植物分類学系の野生植物を取り扱った図鑑等では、本州～琉球に分布するとされていたからである。つまり、北海道にヒメミソハギが“分布する”“分布しない”という2つの見解が存在していたのである。

雑草の分布域を正確に把握することは、各地域において問題となる雑草の特定やその防除対策を考える上でも重要である。また、一般的な雑草であってもその分布限界となる地域では絶滅危惧種として保全対象となっている事例も存在する。

本稿では、再検証可能な証拠から水田雑草ヒメミソハギの国内における分布北限を明らかにすることを目的として、北海道および東北地方を対象とした調査結果（早川ら2026）を紹介したい。

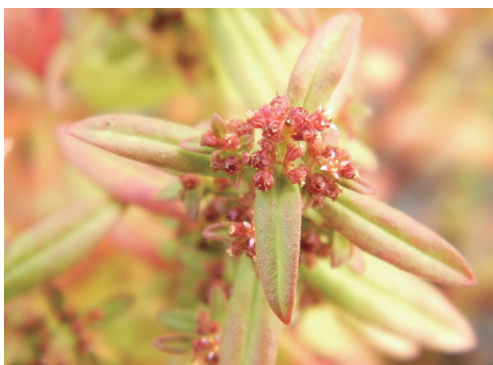


図-1 ヒメミソハギ（2016年9月27日，茨城県つくば市）

北海道における分布の有無

文献調査において、ヒメミソハギが北海道に分布すると記述された中で、参照できた一番古い論文は笠原（1951a; 1951b）であった。両論文では、「本邦水田雑草の地理的分布と発生度」の表にヒメミソハギは「北海道：1（極めて稀に発生する）」と記されていた。さらに、図鑑類における初出を確認した『日本



図-2 山形県新産となるヒメミソハギ標本（YAMA52673，写真提供：山形県立博物館）



図-3 山形県新産となるヒメミソハギ標本の花序（YAMA52673，写真提供：山形県立博物館）

雑草図説』(笠原 1968)にも同内容が記述されていた。

他方、北海道における水田雑草の調査報告では、参照した4報全てでヒメミソハギの記録はなかった。また、参照した7つの植物分類学系の図鑑類では、北海道における分布情報はなかった。

笠原安夫氏のコレクションが所蔵されている岡山大学資源植物科学研究所および3収蔵庫(福島大学共生システム理工学類生物標本室(FKSE)、北海道大学総合博物館(SAPS)、YAMA)における標本調査の結果、北海道産のヒメミソハギ標本を見出すことはできなかった。また、日本国内の所蔵標本情報を横断的に検索することができるサイエンスミュージアムネット < <https://science-net.kahaku.go.jp/> > において標本情報を検索した結果、北海道から北東北において採集されたヒメミソハギ標本はヒットしなかった。

以上から、雑草学分野では1951年以降から、ヒメミソハギが日本全国に分布するとされ、その記述が孫引き引用されてきたものと考えられた。しかし、現地調査や標本証拠が採集されていない現状から、北海道におけるヒメミソハギの分布に関する再検証可能な証拠は見いだせなかった。

東北地方における分布の有無

東北地方におけるヒメミソハギの分布に関して、太平洋側北限は宮城県名取市であった(宮城県野生植物分布図集編集委員会(2017~2024年))。

日本海側では青森県における記録はなかった(藤原・阿部2017; 細井2018)。秋田県では、藤原(1996)および藤原ら(2000)で記録されているものの、同氏の他の著作物(藤原1997; 藤原・阿部2017)には掲載されていないことから、同県における本種の分布は確定していないと考えられる。山形県および新潟県では、分布が記録されている(新潟県植物目録編集委員会2005; 早川ら2026)。したがって、確実な記録としては、山形県が日本海側北限となる。

以上から、これまで雑草学系の図鑑類にヒメミソハギが(北海道を含む)全国に分布と記述されてきた理由は、笠原(1968)もしくはその根拠とした笠原(1951a, b)に準拠してきたためと考えられる。笠原(1951a)では、“昭和17,18年に於て各地在

住の植物分類研究者の援助による調査回答を骨子として文献並に著者の調査結果を総合して茲に纏めた”とあり、ヒメミソハギの分布情報は笠原安夫氏自身が標本等によって確認したのではなく、各地の植物分類研究者からの回答結果と思われる。

本調査の結果、証拠標本を伴うヒメミソハギの国内分布は本州(宮城県・山形県以南)~琉球となり、新たな証拠が得られない限りはヒメミソハギの分布範囲から北海道を除外すべきと考えられる。

謝辞

標本調査を許可いただいたFKSE, SAPS, YAMA, 岡山大学資源植物科学研究所とその収蔵庫スタッフ、ヒメミソハギ標本の写真を提供いただいたYAMAの山口真氏に感謝します。本研究の一部は、JSPS 科研費23K00967および25K03317の助成を受けた。

参考文献

- 藤原陸夫 1996. 秋田県植物目録 第8版. 秋田植生研究会, 秋田, p. 36.
- 藤原陸夫 1997. 秋田県植物分布図. 秋田県環境と文化のむら協会, 秋田.
- 藤原陸夫・阿部裕紀子 2017. 北東北維管束植物分布図. 秋田植生研究会, 秋田.
- 藤原陸夫ら 2000. 秋田県植物目録 第9版. 秋田植生研究会, 秋田, p. 23.
- 早川宗志ら 2026. 本邦におけるヒメミソハギの北限情報の更新(山形県新産). 雑草研究 70, 167-170.
- 細井幸兵衛 2018. 新青森県植物目録. 弘前大学白神自然環境研究所, 弘前.
- 笠原安夫 1951a. 本邦雑草の種類及地理的分布に関する研究: 第4報 水田雑草の地理的分布と發生度. 農学研究 39, 143-154.
- 笠原安夫 1951b. 本邦水田雑草の地理的分布について. 日本作物学会紀事 20, 193-198.
- 笠原安夫 1968. 日本雑草図説: 種子, 幼植物および成植物. 養賢堂, 東京, p. 181.
- 宮城県野生植物分布図集編集委員会(2017~2024年)(編) 2024. 宮城植物の会宮城県野生植物分布図集 [電子版]. < https://www.miyagi-syokubutsu.org/miyasyokubunpuzu_index.html > 2025年4月16日アクセス
- 新潟県植物目録編集委員会(編) 2005. 新潟県植物目録 [チェックリスト] (予報): 維管束植物・コケ植物. 植物同好じねんじょ会, 小千谷, p. 34.
- 新山形県野生生物目録編集委員会 2019. 新山形県野生植物目録 2019. フロラ山形, 山形.